

Q<sup>30</sup>

検査室としてICTの院内感染サーベイランスに関わる場合、どのような役割を果たしていったらよいのでしょうか？

## A

院内感染サーベイランスにおいて微生物検査部の役割は極めて重要です。その理由としては、(1)院内全体の分離菌・耐性菌に関する情報が集積する、(2)アウトブレイクの可能性をいち早く察知することができる、などの点が挙げられます。特に、検体別にみた原因菌の種類・頻度、菌種別にみた耐性菌の割合などは、原因菌の推定あるいは抗菌薬の選択において非常に重要な情報となります。微生物検査室の院内感染サーベイランス活動としてまず実施すべきことは、このような情報を整理・解析して臨床サイドにフィードバックしていくことかと思えます。“日常業務に追われてデータをまとめる時間がない…”という施設も多いかと思えますが、分離菌・耐性菌に関する情報を、少なくとも数ヵ月単位(できれば毎月)でまとめていくことが、微生物検査技師のICTメンバーとしての活動の第一歩かと思えます。また、院内感染が疑われる症例がみられた場合には、原因菌と思われる細菌の特徴・病原因子・耐性メカニズムなどの情報を提供するとともに、院内における生息・分布、伝播経路の可能性などに関して臨床細菌学的な見地からコメントすることも必要になってくるかと思われます。検査技師には常識であっても、感染症を専門としない医師・看護師が知らない情報が微生物検査室には多数あります。例えば、グラム染色での菌種の推定や、検体を直接用いるディスク法感受性試験など、正式な報告書には記載できないものの、原因菌推定や抗菌薬選択の助けとなる有用な情報が微生物検査室から得られるということを知ってもらうことも必要かと思えます。

(舘田一博)